

[01] マハーバーラタ研究の概観

[01] (01) 序論

0001. マハーバーラタと登場人物，

0002. マハーバーラタの輪廓，

0003. マハーバーラタの分量，

[01] (01) 序論

0004. 伝承の起原と校訂本の確立，

0005. 批判的研究，

0006. 参考文献，

[01] (02) マハーバーラタの研究史 (一)

- 0001. マハーバーラタ研究の端緒，
- 0002. 最初の出版と翻訳，
- 0003. マハーバーラタの組織的研究，

[01] (02) マハーバーラタの研究史（一）

0004. ラッセンの研究に対する論評，

0005. 古代史の名残としての英雄物語，

0006. セーレンセンの批判，

[01] (02) マハーバーラタの研究史（一）

0007. 英雄物語・詩・編纂の区別，

0008. 分析的・歴史主義的・総合的・神話学的な研究方法，

0009. ホプキンスの分析的学説，

[01] (02) マハーバーラタの研究史 (一)

0010. ヴィンテルニツの分析的学説，

0011. ホルツマンの戻換法の学説，

0012. ルードヴィヒの神話学的学説，

[01] (02) マハーバーラタの研究史 (一)

0013. ダールマンの考察，

0014. ヤコービとセーレンセンの研究，

0015. ヘルドの民族学的研究，

[01] (03) マハーバーラタの研究史 (二)

0001. ヴィカンダーによる神話学的解釈，

0002. デュメジルの神話学的研究，

0003. デュメジルの機能的な神話学による研究，

[01] (03) マハーバーラタの研究史 (二)

0004. ビアルドーの構造的神話学による研究，

0005. グリンツァーによる類型学的研究，

0006. 〈定形句と定形句的表現〉，

[01] (03) マハーバーラタの研究史 (二)

0007. 〈口誦文学の技法〉 ,

0008. 〈挿話とその変形過程〉 ,

0009. 〈英雄の神話学的モチーフ〉 ,

[01] (03) マハーバーラタの研究史 (二)

0010. 歴史的・類型学的研究の継承，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0001. インド叙事詩研究の始源，

0002. ホメロス研究方法のインド叙事詩への適用，

0003. ホメロスにおける定形句，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0004. 定形句と定形句的なもの，

0005. 口誦詩と主題，

0006. 創作品の要素と即興詩，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0007. 定形句・型・主題，

0008. マハーバーラタにおける口誦詩，

0009. 吟遊詩人と叙事詩吟誦者，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0010. 詩脚の定形句的尾部とその支援語，

0011. 純定形句＝慣用句，

0012. 固有名詞と支援語の結合，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0013. 戦闘に関する定形句的表現，

0014. 発展した定形句＝常套句，

0015. 六群の定形句，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0016. シローカの偶数脚と奇数脚にみられる韻律上の特色，

0017. 定形句としての単語，

0018. 定形句にみられる同義・同韻律，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0019. 定形句的表現の形成，

0020. 支援語による定形句の公式化，

0021. 定形句の不適當な使用，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0022. M. 6. 49 での定形句と定形句的表現の占める割合，

0023. 吟誦詩人と定形句・定形句的表現との関係，

0024. 過渡的テキスト存在の問題，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0025. 主題の反復と挿入，

0026. 挿話の条件としての時間的とぎれ，

0027. 異形本の形成，

[01] (04) インド叙事詩に関する最近のロシアでの公刊

0028. 伝統的要素の統合としての叙事詩，

0029. 口誦伝承の証跡，

0030. 筆写伝承にみられる主題の発展，

[02] 近年の仏教研究（一九七三～一九八三）

- 0001. 卓越した仏教学者の逝去，
- 0002. 梵語仏典写本の複写版の刊行（特に法華経），
- 0003. ギルギット出土写本，

インド文化研究史論集：欧米のマハーバーラタと仏教の研究

[02] 近年の仏教研究（一九七三～一九八三）

0004. 中央アジア出土写本，

0005. 小乗部派論書の研究，

0006. 大乘經典の研究，

[02] 近年の仏教研究（一九七三～一九八三）

0007. ナーガールジュナの研究，

0008. アールヤデーヴァ以降の中観派，

0009. 瑜伽行派の研究，

[02] 近年の仏教研究（一九七三～一九八三）

0010. 仏教認識論の研究，

0011. タントラ仏教の研究，

0012. 仏教文学の研究，

[02] 近年の仏教研究（一九七三～一九八三）

0013. アショーカ碑文の研究，

0014. パーリ文献の研究，

0015. 大蔵経目録の編纂，

[02] 近年の仏教研究（一九七三～一九八三）

0016. チベット・東南アジア仏教の研究，

0017. その他の諸研究，

0018. 追記，

[03] ギリシア人によるインドの発見

0001. 西北インドに対するペルシアの支配，

0002. アレクサンドロスのインド遠征，

0003. アカイメネス王朝期のインド情報，

[03] ギリシア人によるインドの発見

0004. セレウコス王朝期のインド情報，

0005. メガステネスのインド誌，

0006. メガステネスの信憑性の問題，

[03] ギリシア人によるインドの発見

0007. 法典・実利論との対比，

0008. メガステネスの批判的研究，

0009. 利用価値のあるインド情報，

[03] ギリシア人によるインドの発見

0010. アショーカとヘレニズム諸国との交渉，

0011. インド・ギリシア王国，

0012. インド・ギリシア王国以降のヘレニズム文化の影響，

[03] ギリシア人によるインドの発見

0013. 〈天文学〉 ,

0014. 〈貨幣〉 ,

0015. 〈美術〉 ,

[03] ギリシア人によるインドの発見

0016. 〈文字〉 ,

0017. 〈医学〉 ,

0018. ギリシア人へのインドの影響 ,

[03] ギリシア人によるインドの発見

- 0019. 〈文化交流の比重関係〉 ,
- 0020. 〈パンチャタントラの流伝〉 ,
- 0021. 〈バルラームの物語の伝播〉 ,

